

2023 年度流体科学研究所研究活動報告会
「統合流動科学国際研究教育センターが目指すもの」 メモ

日時：2023 年 7 月 18 日（火） 9:00~12:00

司会：内一哲哉統合流動科学国際研究教育センター長

丸田所長からの開会の挨拶で、流体研では博士前期課程→博士後期課程→若手研究者に至るまで、あらゆる段階の国際交流を支援する準備がされていることが説明された。博士前期課程での国際会議発表もしくはインターンシップ等の短いプログラムから博士後期課程に進学して研究を継続していく中で、いずれはその研究で社会に貢献していくというプラットフォームを作っているの、留学や海外での研究滞在等を希望している場合は自分だけで解決しようとせず、まず指導教員に相談しサポートを受ける道を見つけて欲しいとの話があった。

海外拠点との連携

- ・ 国立陽明交通大学（台湾）

サマープログラム（学部生、大学院生対象）、ダブルディグリーのプログラムが既に準備されている。また日本における半導体の研究者は徐々に高齢化が進んでいるが、一方台湾は若い研究者が多く大変活気がある。興味があれば、指導教員にご相談頂き是非現地での研究者との交流の機会を作って欲しい。ワークショップは今後も定期的開催予定。

- ・ ワシントン大学のワークショップ

2023 年 9 月 20 日、21 日、22 日でワシントン大学においてワークショップを開催する予定。今回のワークショップのコーディネートをされている大内二三夫特任教授（元・ワシントン大学教授）が現在も東北大学とワシントン大学の研究者をつなぐ役割をされている。

- ・ オルレアン大学（フランス）、KAUST（サウジアラビア）

今年の ICFD 開催後に 2 日間でワークショップを計画中。

参加者からのコメント

・ それぞれの拠点における AI、DX について、流体研が軸となって拠点間におけるシナジー効果が生まれるよう進められれば理想的であるとのコメントがあった。

・ 研究室で海外に行きたい学生が多く、参考になることがあればと思い参加したが、自身の研究内容とオルレアン大学との研究内容で関わる可能性を知ることができ、参加してよかったとのコメントがあった。

・海外での交流を持つこと、同時の同じ場所にいることが将来のネットワークづくりに非常に役立つので、是非積極的に経験してほしい。

博士後期課程進学モチベーション

・修士で就職活動をしてみて、自分の興味をさらに突き詰めたいと感じた。研究が楽しくなってきた。

・研究を続けたいと思うのと同時に、後期課程に進学することで海外での経験が積めるのではないかと思った。

(派遣先の諸外国の学生の場合)

・アメリカでは、自身の環境が許せば後期課程に進学するという印象を受けた。

・フランスでは、後期課程に進学する心構えができている人が多い。焦点となるのは支援探しとなる。

・出身国によっては「世界を変えたい!」という野心を持って海外で後期課程に進学する学生もいる。